

授業協議会記録

1 研究の視点

- この単元の学びは、これまでの国語科授業での学びや振り返りを生かすものになっていたか。
- 〈分析の観点〉を基にした対話は、生徒たちの読みの深まりにつながったか。

2 自評

- 『仙人』と『鼻』を選んだ理由は、言葉を手がかりに多様な解釈ができるというところ、どちらも表現、構成、人物、文体、語り手など様々な工夫がなされているところ。近代文学への関心が高い3Dの生徒が、これまでの学びを生かして挑む作品としてふさわしいと考えた。
- この3年間、読むことの学習では「表現」「人物」「文体」などの視点を設定して学習に取り組んできた。本日の授業でもそういった視点を基にした生徒の発言があった。さらに、今回はパフォーマンス課題が「選ぶ」というものだったため、生徒の発言の中には「教える」「学びがあるか」という視点も加わっていた。

3 質疑応答

- 授業の振り返りをどのように効果的に活用しているか。
- 授業のスタートで、発言していない生徒の気づきや学びを紹介したり、生徒の学びを集約したことを伝えたりしている。
- とても面白い授業だった。課題としてはちょっと深すぎたのかな、と思うところもあるが、生徒の思考の渦が見え、3年間の集大成という感じがした。ここまでの授業にするための仕掛けがあれば教えてほしい。
- 課題については、研究部のグループの中で練った。文学的文章のオーソドックスな課題としては、しっかり作品に浸り、読んだことをもとに「文学の良さを小学生に伝えよう」などということをやっている。今回の「教科書教材を選ぶ」という設定は、生徒にとって難しい課題だったと思う。しかし、生徒の教材への思いや願いを知ることができたことは有意義であった。

4 意見

- 教員の言葉を最小限にして、生徒がよくしゃべっていた。ここまでの学習の積み上げや学習習慣が身に付いていた。
- 今回の授業は先生の思いがあっとうまくいったところもある気がする。ただ、一般論として言えば今回のパフォーマンス課題は「中学生向けの芥川龍之介作品集を作りたい。あと一つしか載せられないが、最後に残った作品の『仙人』『鼻』のどちらがよいか」というような課題でも良かったのではないかなと思う。
- 「文学的な価値としてどちらが優れているか」というところにシフトした議論になっていた。発達段階の中で、生徒がどちらと出会っておきたいか、人生観にどういう変容があったかというのを規準として選んでほしかった。今日の議論の中には人間に対する思い、社会に対する考えみたいなものがたくさん出てきていた。

5 指導助言

- PBLを取り入れるのであれば、「実際の教科書作りにおいて、どのようなことが考えられているのか」という視点を入れた方が良かった。
- 今回の課題は、実生活に即した形で解決学習としては成り立っていた。
- 生徒たちはしっかり議論ができており、見ていて楽しかった。
- 単元設計に「教材の鑑定会議」とあるが「鑑定」というのは「物事を判断すること、またその判断」。「選定」という言葉の方が望ましいのではないかな。
- エージェンシーというのは、子どもたちがどういう風に育っていくかということを目指しているもの。一方で教師自身が成長するための概念でもある。教師自身も成長していかなければならない。その意味では、新たな授業展開に挑戦していた。